

富士宮市生ごみ水切りモニター調査 結果報告

平成 29 年 2 月

富士宮市 環境部 生活環境課

I 調査の目的

富士宮市は、ごみ処理費用や焼却灰の削減を目的として平成 28 年 12 月 1 日より市民一丸となつてごみの削減に取り組む「富士宮市みんなで取り組むごみダイエットプロジェクト」を開始した。その中で身近にあるもので簡単にできる水切り方法を普及させるため、一般家庭で生ごみの水切りを実践してもらうことにより、生ごみの減量意識を定着させるとともに、水切り効果の検証を行う。そしてその調査結果を今後の生ごみ減量普及啓発に活用する。

II 調査概要

1. 内容

協力世帯に市 HP で紹介している 3 種類の水切り方法（各 5 回）の実践を依頼。水切り前後の生ごみの重さの計測、生ごみの水切りに関するアンケート調査を依頼し、生ごみ減量に対する意識を検証する。

2. 方法

①ペットボトルを使った水切り方法 ②牛乳パックを使った水切り方法



③ビニール袋を使った水切り方法



3. 期間

平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日

4. 対象

富士宮市に居住する 10 世帯

[調査結果]

<モニター属性>

1. 性別	回答数(人)	割合(%)
男性	0	0.0%
女性	10	100.0%

2. 年代	回答数	割合(%)
10歳代	1	10.0%
20歳代	1	10.0%
30歳代	2	20.0%
40歳代	1	10.0%
50歳代	0	0.0%
60歳代	5	50.0%
70歳以上	0	0.0%

3. 世帯人数	回答数	割合(%)
1人	1	10.0%
2人	1	10.0%
3人	4	40.0%
4人	1	10.0%
5人	1	10.0%
6人以上	2	20.0%

4. 住居形態	回答数	割合(%)
集合住宅	1	10.0%
一戸建て	9	90.0%
その他	0	0.0%

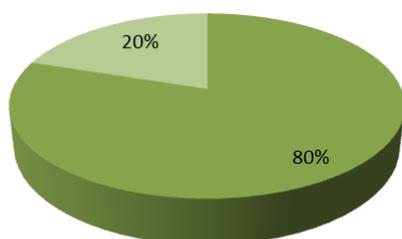
<アンケート結果>

○今回のモニターに参加する前は、生ごみの水切りを行っていましたか

	回答数	割合(%)
行っていた	8	80.0%
行っていなかった	2	20.0%

水切り経験

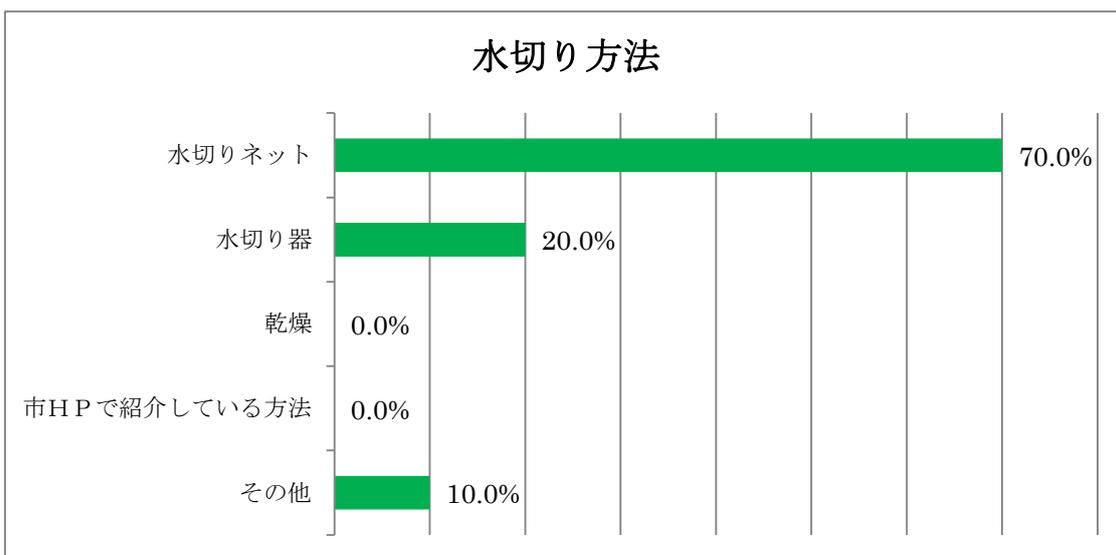
■ 行っていた ■ 行っていなかった



○「行っていた」と回答した方は、その方法をお答えください（複数回答可）

	回答数	割合(%)
水切りネット	7	70.0%
水切り器	2	20.0%
乾燥	0	0.0%
市HPで紹介している方法	0	0.0%
その他	1	10.0%

水切り方法



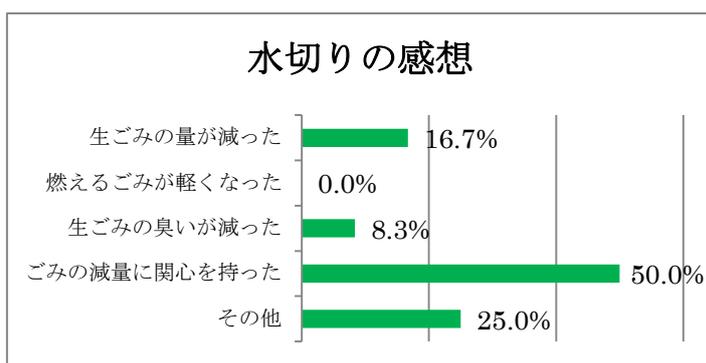
※その他：ビニール手袋もしくはゴム手袋

○「行っていなかった」と回答した方は、理由をお答えください（複数回答可）

	回答数	割合(%)
面倒だから	0	0.0%
効果があると思わない	0	0.0%
メリットが分からない	2	100.0%
自家処理をしている	0	0.0%
その他	0	0.0%

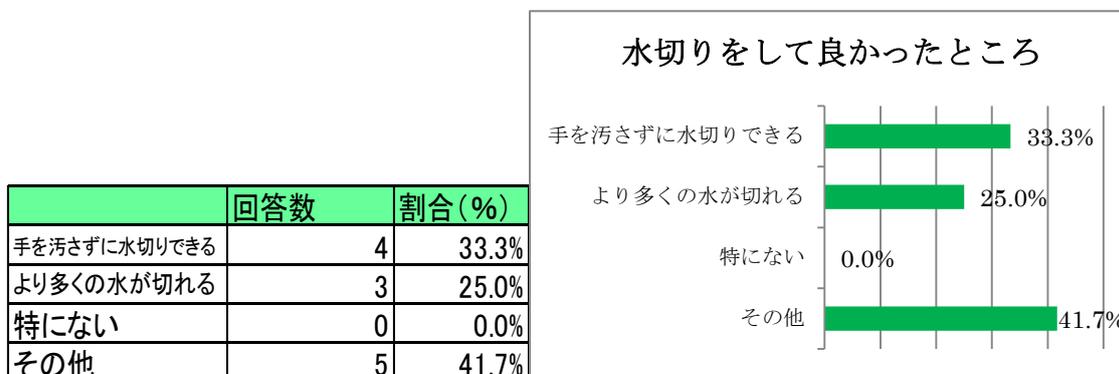
○水切りを行った感想を教えてください（複数回答可）

	回答数	割合(%)
生ごみの量が減った	2	16.7%
燃えるごみが軽くなった	0	0.0%
生ごみの臭いが減った	1	8.3%
ごみの減量に関心を持った	6	50.0%
その他	3	25.0%



※その他：あまり効果を感じなかった、水切りネットではあまり水分がとれていないことが分かった

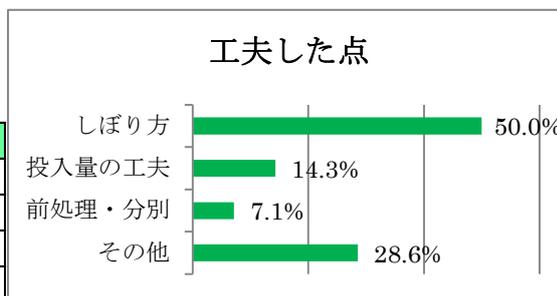
○3種類の水切り方法を試してみて、良かったところは何ですか（複数回答可）



※その他：逆に手が汚れた、以前からやっていたので特に変わらない

○生ごみの水切りをする際に工夫したことは何ですか（複数回答可）

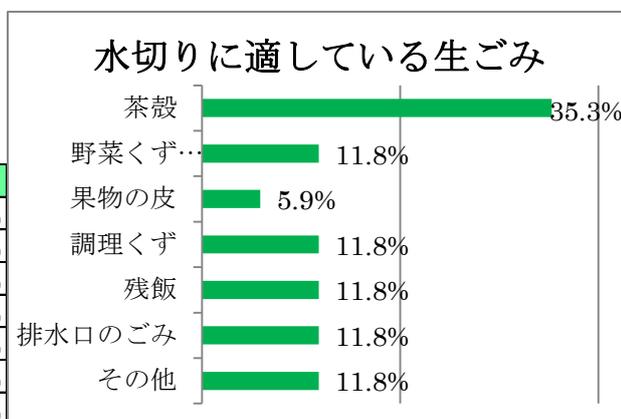
	回答数	割合(%)
しぼり方	7	50.0%
投入量の工夫	2	14.3%
前処理・分別	1	7.1%
その他	4	28.6%



○水切りに適していると感じた生ごみの種類、適さないと感じた生ごみの種類をそれぞれお答えください。

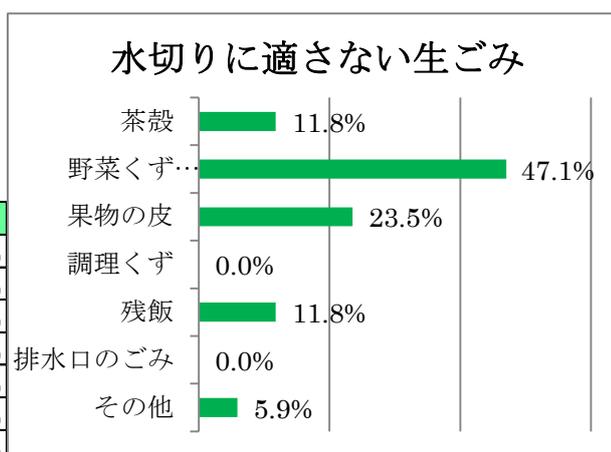
*適しているごみ

	回答数	割合(%)
茶殻	6	35.3%
野菜くず(野菜の皮)	2	11.8%
果物の皮	1	5.9%
調理くず	2	11.8%
残飯	2	11.8%
排水口のごみ	2	11.8%
その他	2	11.8%



*適していないごみ

	回答数	割合(%)
茶殻	2	11.8%
野菜くず(野菜の皮)	8	47.1%
果物の皮	4	23.5%
調理くず	0	0.0%
残飯	2	11.8%
排水口のごみ	0	0.0%
その他	1	5.9%

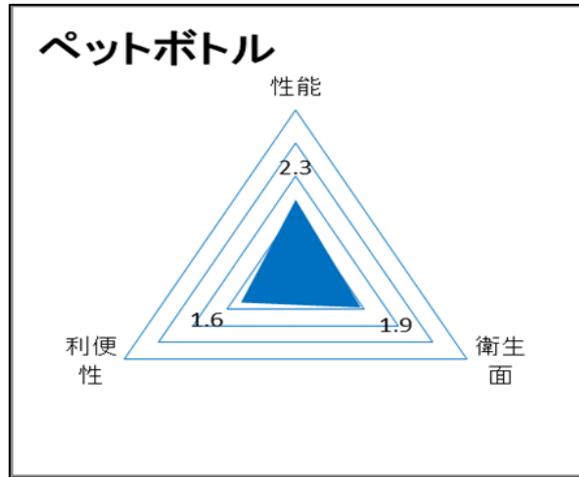


水切りに適している生ごみとしては茶殻、適していない生ごみとしては野菜くずが最も多かった。

○ 3種類の水切り方法の評価

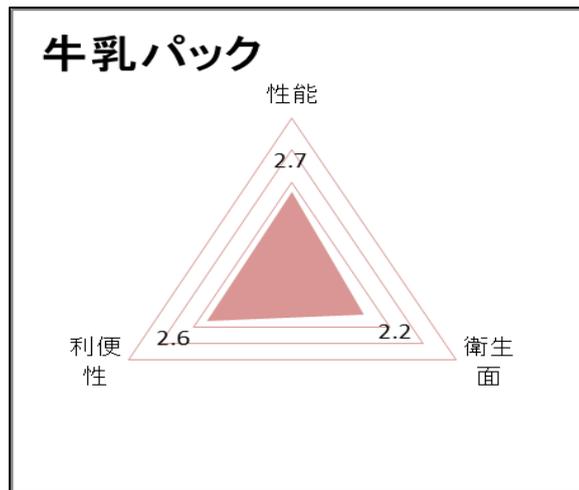
① ペットボトル

	ペットボトル
性能	2.3
衛生面	1.9
利便性	1.6



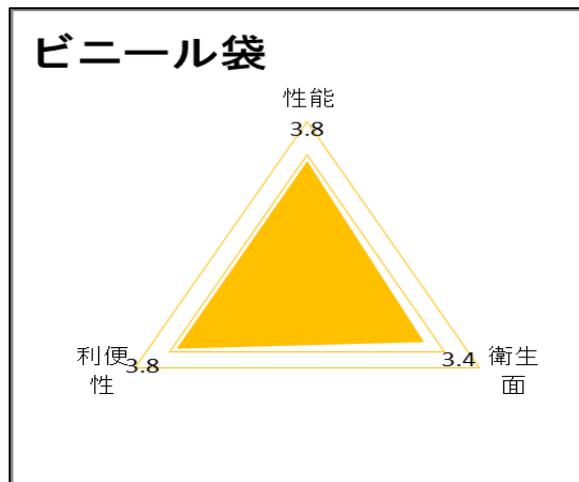
② 牛乳パック

	牛乳パック
性能	2.7
衛生面	2.2
利便性	2.6



③ ビニール袋

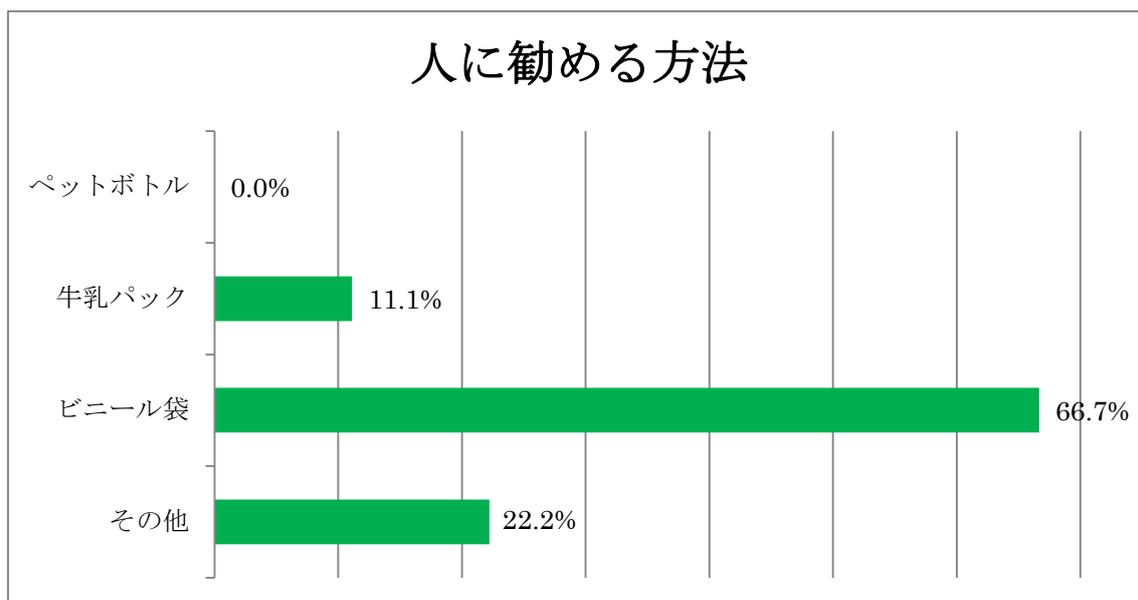
	ビニール袋
性能	3.8
衛生面	3.4
利便性	3.8



※各項目 5 点満点で、各モニターの評価を平均化した数値

○人に勧めるとしたらどの方法ですか

	回答数	割合 (%)
ペットボトル	0	0.0%
牛乳パック	1	11.1%
ビニール袋	6	66.7%
その他	2	22.2%



※その他：ゴム手袋でしぼる、市販の水切りカゴを使う

<その他市民モニターから寄せられたコメント>

- 食べ残しをしない様に作る量を少なめにする様に心がけようと思います。三角コーナーにネットを入れなるべく水分をしぼるように心がけています。
- ごみの量は減らすことができたと思う。普段水切りネットを使い、そのまましぼっていたのでそれが一番良いかな。どれもひと手間かかる上に無駄にごみを出してしまうのでは。
- 水切りネットを過信していました。実際に量ってみて我が家のごみの量が分かり、常に食べ切りは行っているので残飯は少ないと再認識しました。無駄な食材を買わず必要な量の献立・調理にこれからも心がけ、握力にまかせ水切りを徹底していきたいです。
- 息子と一緒に調査をしました。子どももとても興味を持ち、これからのゴミの出し方の意識が変わると思います。良い経験ができました。
- 牛乳パックも毎回使い捨てにした（やはり保管するのは衛生的によくない）。リサイクルできるものをごみとして一緒に処分してしまう点でも良くないかも。
- 水が絞れるようで、それ程でもなかった。ペットボトルの口が狭いので水切りネットを引っ張る時、力を入れすぎ切れてしまった。

＜生ごみの削減結果＞

本調査では、Ⅱ－２で記した３種類の方法を調査期間中各５回ずつ実践し、それぞれの水切り前後の重量を計量してもらった。結果は以下のとおりである。

	水切り前(g)	水切り後(g)	削減量(g)	水切り率(%)
ペットボトル	14,189	12,444	1,745	12.3%
牛乳パック	15,064	12,788	2,276	15.1%
ビニール袋	18,349	15,890	2,459	13.4%
総計	47,602	41,122	6,480	13.6%

モニター期間中の生ごみの総削減量は 6,480 グラムとなり、３種類の平均の水切り率は 13.6%だった。この結果を富士宮市の生ごみ全てで水切りを実施したと仮定すると、年間約 929 トンのごみ減量効果があることが分かった。

※平成 27 年度可燃ごみ量 (37,324 トン) ×生ごみの割合 (0.183) ×水切り率 (0.136)

＜まとめ＞

今回のモニター調査で、生ごみの水切りにより約 13.6%の減量効果があることが分かった。この数値を基に、富士宮市内で排出された生ごみをすべて水切りしたと仮定すると、年間約 929 トンの可燃ごみの減量ができることがわかった。ただし、今回モニター調査に参加した方々は、普段からごみ減量に対する意識が高く、モニター調査より前から水切りを行っていた家庭が多い。そのため普段から水切りを行っていない家庭で水切りを行うようになれば、さらなる減量効果が見込めると考えられる。

本調査ではビニール袋を用いた水切り方法が手軽にでき、人に勧めたいという意見が多かった。また、今後は水切り器を用いた生ごみの水切りについてもモニター調査を行い、市民が簡単にかつ効果的に水切りを行える方法を検証したい。

今後、より手軽な方法で市民に水切りを取り組んでもらえるような働きかけが必要になる。そのためにごみダイエットプロジェクトで生ごみの削減の啓発を重点的に行い、更なる生ごみの排出削減を目指して取り組んでいく。